追 悼

三橋 博 博士 1922－1991
Dr. Hiroshi MITSUHASHI 1922－1991



The late Dr. Hiroshi MITSUHASHI (1922－1991)

北海道大学名誉教授，㈱ツムラ生物・化学研究所長，薬学博士 三橋 博氏は，僅か2ヵ月ばかりの間に急に御病状革まり，平成3年8月31に急逝されました．三橋 博氏はツムラ研究所長として本誌の刊行に常に関心を寄せ，温かい後援を惜しまれませんでした．間もなく一周忌を迎えるに当り，深く故人のご冥福を祈る次第です．三橋氏は，昭和19年東大薬学科を卒業，直ちに2年現役海軍薬剤官として勤務，昭和21年復員後は生薬学教室に於て生薬学，特に生薬成分の結晶学的研究に従事されましたが，その間，植物採集に深い興味を持ち，健脚に任せて各地の山野を跋渉されました．昭和28年から2年間，米国シアトルのワシントン大学生薬学教授，H. W. Youngken Jr. の下に留学し，帰国後，昭和30年新設の北海道大学医学部薬学科（現薬学部）の助教授として赴任，生薬学教室の開設に努力されました．翌年教授となり，北海道産薬用植物の研究，特にホッカイトウキ，アイヌの薬物イケマから始めて広くガガイモ科植物のステロイド成分の研究を展開し，これらについては国際的に高い評価を得，昭和40年度日本薬学会学術賞を受賞され，またインド薬学大会，国際薬学連合（FIP）大会（イスタンブール）等でこれについて招待講演を行っておられます．三橋氏はまた，北海道に於ける薬用植物，生薬の生産にも多大の関心を寄せ，特に，北海大黄の実際的な生産栽培に成功して，昭和57年北海道科学技術賞を得られました．昭和60年3月北海道大学教授定年退官後は，同大学名誉教授となり，更に引続き ㈱ツムラ生物・化学研究所長として多くの研究員を指導，生薬，薬用植物の研究と開発に新たな意欲を燃やされていたところで，その急逝は誠に痛惜の念に耐えません．（柴田承二）